

地域における医療介護職協働 在宅看取りケア研修事業 報告

今年度実施地域：京田辺市、右京区、上京区、中京区、宇治市、西京区

西京区は昨年に引き続き、第2回目の研修を10月31日（木）に西文化会館ウエスティ創造活動室にて開催いたしました。昨年は三菱京都病院と協働でしたが、今年は西京区在宅医療・介護連携支援センターと協働で開催いたしました。

地域の開業医に参加していただきたく、18時からと遅い始まりだったのですが、たくさんの方にお集まりいただきました。



第2回 看取りを考える多職種研修会西京区編 「最後まで自分らしく」

誰しもが迎える死は、その方の生活や人生の延長線上にあるものです。病気や症状だけでなく、その方らしい最期の迎え方、その支え方について、多職種で一緒に考えましょう。

●おれについて 思いを伝えよう！

— 内容 —

1.事例紹介
「多職種連携で看取りを支えたケース」
発表者：訪問看護ステーションのついで
京都府ケアマネージャー（原モトユキ）
ならの木薬局 コフケチホ洛西（訪介）
アピカクリニック長岡京事業所 伊藤アキラ

2.意見交換会
職種や事業所の垣根を越えて話し合います。

日時 令和元年 10月31日（木） 19：15～20：30
（西京地域医療介護関係者研修続き）

場所 西文化会館ウエスティ 創造活動室

対象者 西京地域医療介護関係者

お申込み 別紙申込票にご記入の上、西京区在宅医療・介護連携支援センターにメールまたはメールにてお申込み下さい。

お問い合わせ
訪問看護ステーションひなた
担当者：園野
☎075-203-7302

※開催について
「第24回西京地域医療介護関係者研修」に引き続き開催いたします。

主催
一般社団法人
京都府訪問看護ステーション協議会
後援
一般社団法人 西京医師会
京都府西京区在宅医療・介護連携支援センター

第一部は岡山在宅クリニックの岡山洋子院長に『死にゆく人への実践的な声掛けとケア～終末期医療は納得医療～』というテーマで講義していただきました。



「人は生まれたその時から最期のときが来ると決まっている。そのため、別れをきちんとすることで人が亡くなるのが悲劇ではなくなる」ということがとても印象的でした。別れができていない死（突然死や予想外の急変による死）は悲劇的な死になってしまうので、余命を予測し死に対する準備を必要があるとのことでした。また、最終時期の様子や対応についてもお話しいただき、最期の時を迎えてもあわてなくてすむのではないかと自信がつかしました。



第二部は訪問看護ステーションワトレイを中心にケアマネジャー、デイサービス、訪問入浴事業所から「多職種連携で看取りを支えたケース」についての症例を発表していただき、その後、職種や事業所の垣根を越え「自分だったら看取りの時期に何かができるか」を話し合ってもらいました。



参加者は医師5名、訪問看護師26名、ケアマネジャー28名、ヘルパー1名、行政2名、その他14名の76名でした。アンケートの結果、看取り経験のある方が44%で、今回の研修が今後の看取りケアに活かせるかという質問には88%の方が「非常に活用できる」「かなり活用できる」と回答していただきました。

「多職種で同じ方向を向き、意識を持ち、本人・家族にとって良い最期を迎えて頂けるよう支援していきたいと思う。自分の家で安心して暮らし続けられる地域づくりや在宅看取りに対する地域の方の理解を高める取組が必要。今日は地域の力を感じる楽しいひとときでした。」等の感想をいただきました。

「人生の終い支度と医療」のパンフレットを紹介していただき、渡すタイミングや説明の方法についてもお話ししていただきました。

西京区では開業医や訪問看護ステーションといった医療とケアマネジャー、地域包括支援センター、デイサービス等の介護との連携がとれていることに喜びや嬉しさ安心を感じる研修でした。

